

## 7. 水源地域動態



## 7. 水源地域動態

### 7.1 評価の進め方

#### 7.1.1 評価方針

猿谷ダムにおける水源地域動態の評価は、大きく2つの観点から行った。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理開始以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理した。この結果に基づき、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等について評価した。

もう一つの観点として、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行った。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行った。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討した。

#### 7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの観点により評価を行った。

作業のフローを図 7.1.2-1 に示す。

##### (1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口・産業等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握した。

##### (2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握した。

また、猿谷ダム周辺施設の利用状況・地域交流・各種イベントの内容・参加人数等を整理するとともに、これまでダムに訪れた人や地元住民から寄せられた意見・要望等から猿谷ダムに対する意識を把握した。これらのとりまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握した。

##### (3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、地域におけるダムの位置づけについて考察を行った。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年を含むこれまでのダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価した。

#### (4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理した。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行った。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めた。

#### (5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理した。

また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行った。

#### (6) まとめ

以上のとりまとめ結果から、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理した。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめた。

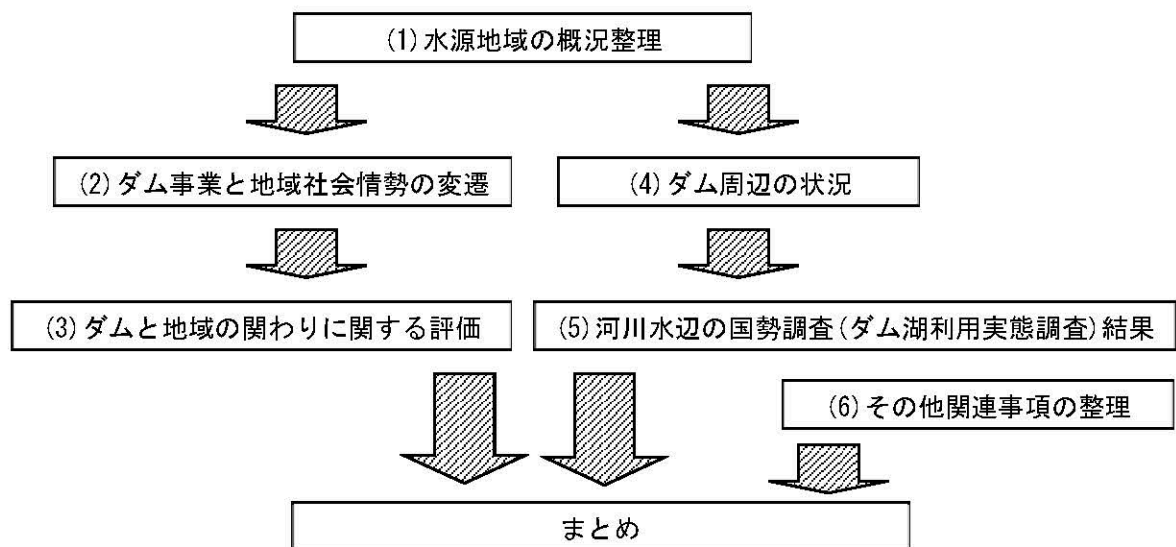


図 7.1.2-1 評価手順

## 7.2 水源地域の概況

### 7.2.1 水源地域の概要

#### (1) 水源地域の位置

猿谷ダム周辺の水源地域市町村の状況を図 7.2.1-1 に示す。

猿谷ダムは熊野川河口から約 100km、標高約 440m 地点に位置する。

猿谷ダムの水源地域市町村は、天川村、野迫川村、五條市大塔町（旧大塔村）と、猿谷ダムからの分水先である紀の川流域の五條市（旧西吉野村を含む）を含めて水源地域とする。

なお、平成 17 年 9 月に旧大塔村、旧西吉野村、五條市が合併し、現五條市となっている。

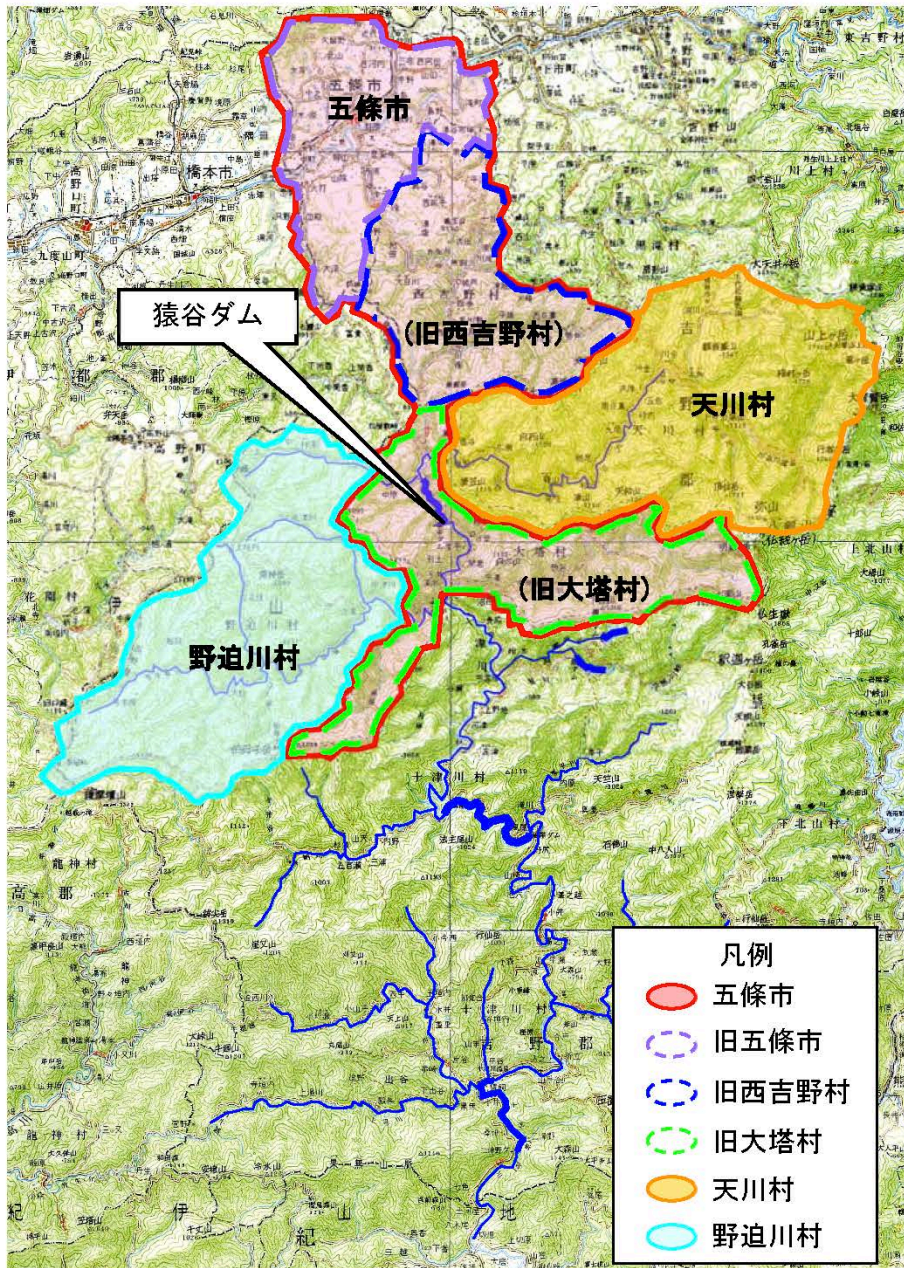


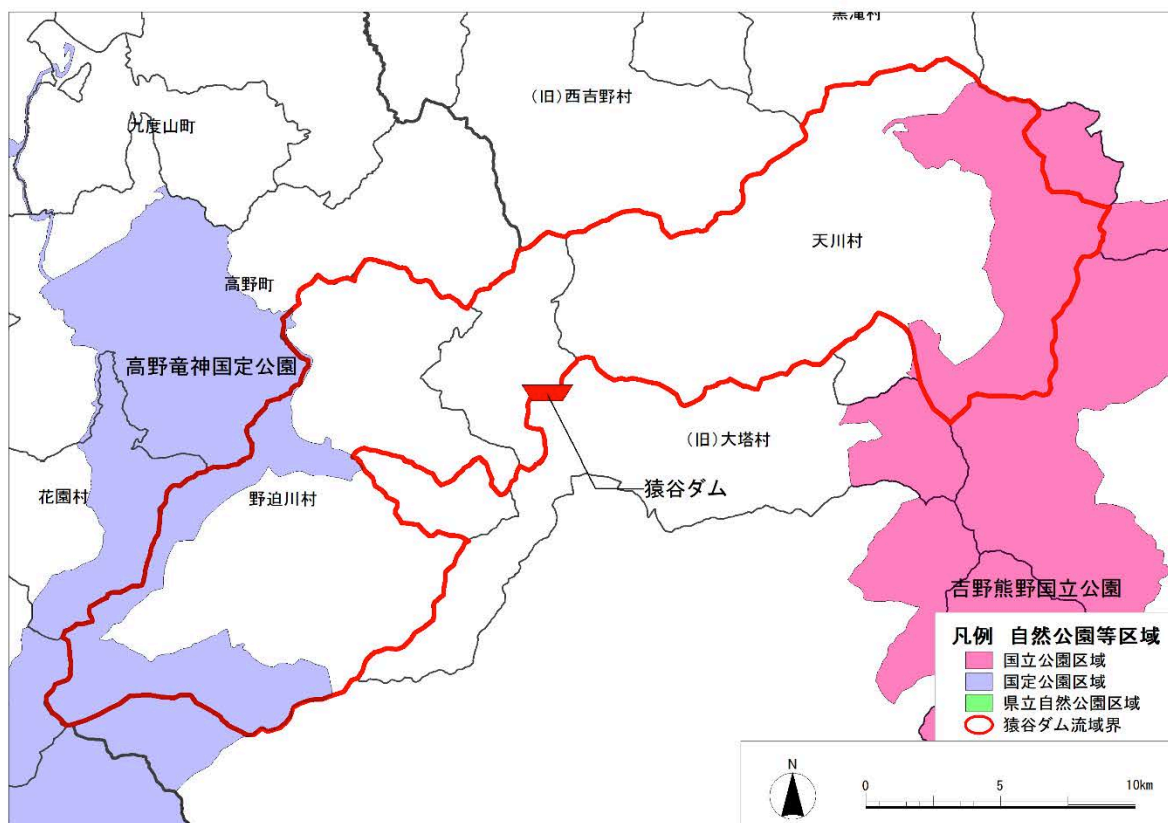
図 7.2.1-1 猿谷ダム周辺の水源地域市町村の状況



## (2) 自然公園等

猿谷ダム近傍の自然公園等の指定状況を図 7.2.1-2 に示す。

猿谷ダム近傍は、高野竜神国定公園、吉野熊野国立公園に指定されている。猿谷ダムが位置する五條市は、紀伊半島のほぼ中央部、奈良県の南西部に位置し、四季折々に情感を漂わせる国立・国定公園等の豊かな自然とロマンにあふれる歴史が満ち溢れている。また、平成16年7月には、「紀伊山地の霊場と参詣道」（和歌山県・奈良県・三重県にまたがる3つの霊場（吉野・大峰、熊野三山、高野山）と参詣道（熊野参詣道、大峯奥駈道、高野山町石道））が世界遺産（文化遺産）に登録されており、参詣道の一つ「大峯奥駈道」が五條市、天川村を通っている。



(出典：奈良県自然公園等区域図より作成)

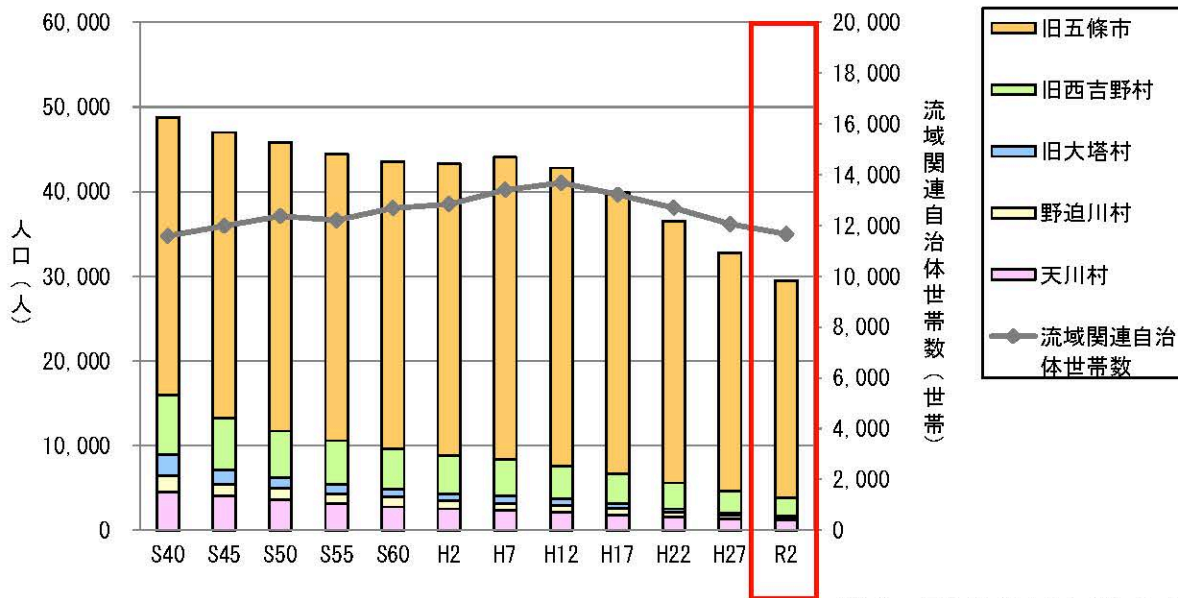
図 7.2.1-2 猿谷ダム近傍の自然公園等

(3) 水源地における人口・産業構造・事業所数

1) 総人口・総世帯数

猿谷ダム水源地を構成する旧自治体全体の人口・世帯数の推移を図 7.2.1-3 に示す。  
猿谷ダム水源地では、人口は減少傾向が続いており、特に平成 12 年以降の減少が顕著である。

世帯数については、平成 12 年までは増加していたが、それ以降は減少に転じている。



(出典：国勢調査結果を基に作成)

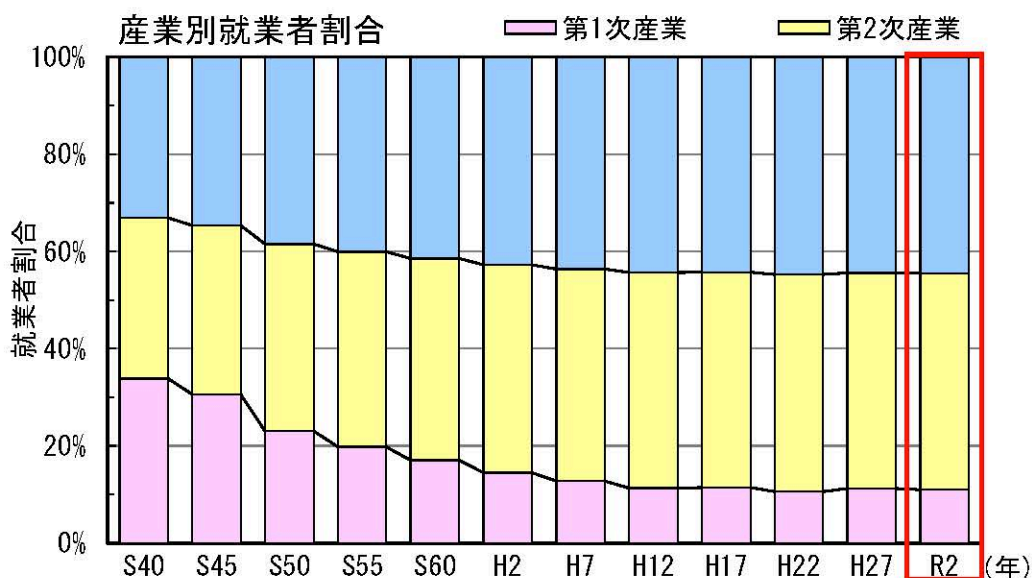
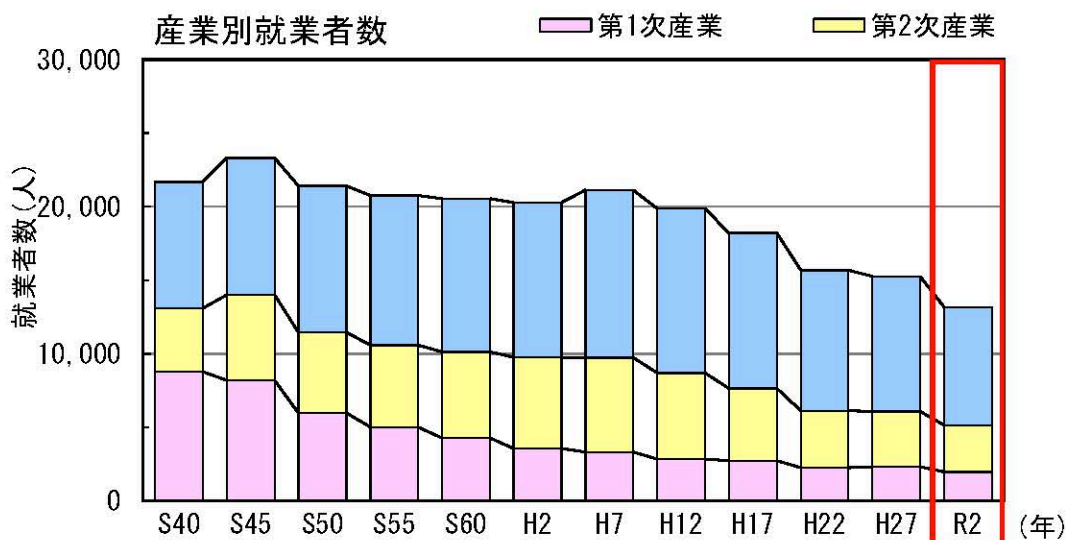
図 7.2.1-3 猿谷ダム水源地全体の人口の推移

## 2) 産業別就業人口

猿谷ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業人口を図 7.2.1-4 に示す。

産業別就業者人口は、平成 12 年以降、減少傾向が顕著であり、平成 12 年の 20 千人程度から令和 2 年には 1 千人弱程度に減少した。

産業別割合をみると、第 1 次産業が減少し、第 2 次産業、第 3 次産業の割合が増加する傾向がみられたが、令和 2 年で第 1 次産業の割合が急激に減少している。



※第1次産業

…農業、林業、漁業

第2次産業

…鉱業、建設業、製造業

第3次産業

…電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・保険業及び不動産業、サービス業、公務、医療・福祉、教育・学習支援業

(出典：国勢調査結果を基に作成)

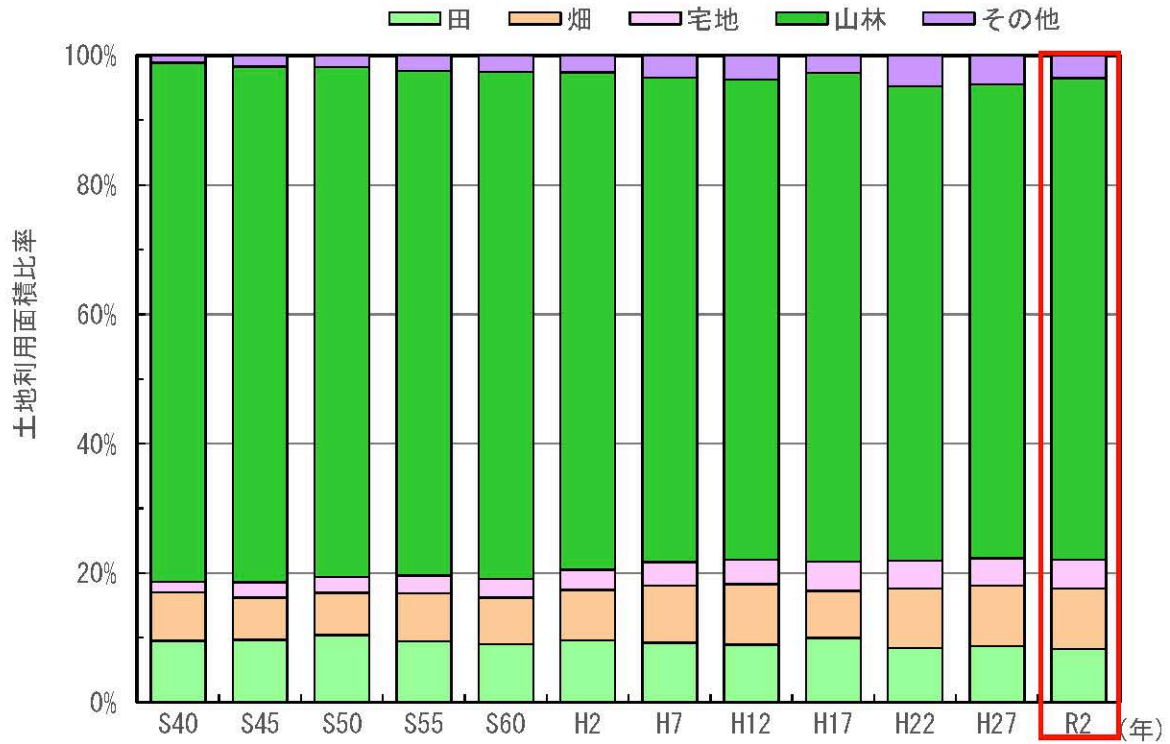
図 7.2.1-4 猿谷ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業人口



### 3) 土地利用割合

猿谷ダム水源地域を構成する旧自治体の土地利用を図 7. 2. 1-5 に示す。

山林の占める比率が高いが、畑や宅地が僅かながら増加傾向にある。



(出典：奈良県統計年鑑より作成)

図 7. 2. 1-5 猿谷ダム水源地域を構成する旧自治体の土地利用面積の割合

## 7.2.2 ダムの立地特性

### (1) ダム周辺の幹線道路状況

猿谷ダムへの交通アクセスを図 7.2.2-1 に示す。

猿谷ダムは、五條駅から国道 168 号線を利用してバスで約 50 分の距離にあり、交通の便は良くないが、五條市は、京奈和自動車道、五條新宮道路が建設中であり、これらの道路が全面開通されれば、猿谷ダム及びその周辺の観光施設へのアクセスも、現状と比べて改善される。



交通アクセス（五條市まで）

- (1) 大阪→関西本線天王寺→JR 和歌山線（高田）→JR 和歌山線五條 2 時間
- (2) 大阪→地下鉄難波→南海高野線橋本→JR 和歌山線五條 2 時間
- (3) 大阪→地下鉄又は JR 大阪阿部野橋→近鉄南大阪線（橿原神宮前）→近鉄吉野線吉野口→JR 和歌山線五条 2 時間
- (4) 京都→近鉄京都線（大和西大寺）→近鉄橿原神宮前→近鉄吉野口→JR 五条 2 時間
- (5) 名古屋→JR 新幹線京都→ルート（4） 3 時間
- (6) 名古屋→近鉄名古屋線・大阪線 大和八木→近鉄橿原線 橿原神宮前→近鉄吉野線 吉野口→JR 五条 3 時間
- (7) 和歌山→JR 和歌山線五条 1 時間 30 分
- (8) 関西空港→南海線新今宮→南海高野線橋本→JR 和歌山線五条 2 時間 30 分
- (9) 関西空港→JR 関西本線天王寺→JR 和歌山線五条 2 時間 30 分
- (10) 大阪（伊丹）空港→空港バス大阪→ルート（1）→（2）→（3） 五条 2 時間 30 分

（出典：五條市ウェブサイトより作成）

図 7.2.2-1 猿谷ダムへの交通アクセス

(2) ダム周辺の観光施設等

ダム周辺の観光施設位置を図 7.2.2-2 に、主な観光施設の概要を表 7.2.2-1 に示す。



(出典：紀の川ダム統合管理事務所ウェブサイト)

図 7.2.2-2 猿谷ダム周辺の観光施設位置



表 7.2.2-1(1) 周辺の主な観光施設

施設名	施設名	概要
宮の滝		<p>篠原地区の西方林道沿いにある「宮の滝」は、落差約40mの3段の滝で那智の滝とは夫婦であると伝えられている。</p> <p>1段目の滑らかな岩肌で勢いをつけた水流は、2段目で空中に飛び出して滝壺を作り、これをこぼれ出て垂直に落ちる3段目は飛沫となり、時に最下部の滝壺で虹を浮かべる。2段目の滝壺には蛇がいると伝えられ、誰も近付かないように戒められてきた。</p> <p>3段それぞれに特徴をみせる宮の滝は、新緑や紅葉に映える美しさもさることながら、厳寒時に凍りついた様相にも見応えがある。</p>
舟の川溪谷		<p>篠原地区の奥地から熊野川に流れ下る舟ノ川は、大峯山脈の明星ガ岳から七面山にかけての山稜を水源とする、非常に澄み切った清流である。新緑の季節、紅葉の季節に大自然のすばらしい景観を楽しませてくれる。</p>
高野辻ビューポイント		<p>世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の「大峯奥駈道<small>おおみねおくのけみち</small>」が通る大峯連山を東方に、真言密教の聖地高野山の山並みを西方に眺めることができる。</p> <p>東は、標高1894mの明星ガ岳を山稜の中央に眺め、南北に走る大峯の険しい山々がパノラマとなって広がり、西には柔条たる山々と深い谷が織り成す紀伊山地の山々が見られ、早朝には谷を埋めるような雲海を眺めることもできる。</p>
ふれあい交流館（大塔温泉夢乃湯）		<p>「夢乃湯」を利用した総合温泉施設で、市民の文化や福祉の活動拠点、さまざまな交流の場としての機能を持っている。大会議室やアスレチックルーム等内容も充実し、ゆったりくつろいでリフレッシュできる環境が整っている。※休館中(令和4年3月2日時点)</p>
大塔コスミックパーク「星のくに」		<p>緑あふれるすがすがしい高原にあるコスミックパーク星のくに。芝すべりやパーベキューを楽しみ、天文台やプラネタリウム館で星座の勉強をしたあとは、満天の星空を見上げながらロマンティックな気分になる。1日中遊べる大塔自慢の観光スポットである。</p>

表 7.2.2-1(2) 周辺の主な観光施設

	施設名	概要
道の駅「吉野路大塔」		<p>道の駅「吉野路大塔」は、大塔の様々な観光情報をはじめ、特産品を一堂に集めた総合案内センターである。ドライブのご休憩や見どころ情報の収集にも便利である。</p>
大塔郷土館		<p>郷土館は、大塔村の歴史と文化を正しく後世に伝えていくため、郷土の歴史や民俗資料を展示し、併せて山村の食文化を実演・体感できる場にして、都会の人達と村民とのふれあいスペースにすることを基本理念として建設された。</p>
オートキャンプとちお		<p>大自然に囲まれた天川村のキャンプ場である。水泳・カヌー・ボート遊び・魚釣り・野猿に乗って近くの山林へ、森林浴も楽しめる。マスの釣堀もあり、一日中、飽きることなく過ごせる。</p>
円空の里なごみ村キャンプ場		<p>自然と設備を兼ね備えたキャンプ場である。川遊びや渓谷での水遊び、魚のつかみ取り、谷間の木道を散歩。 大自然と触れ合い、時の過ぎるのを忘れさせてくれる。</p>
天の川青少年旅行村		<p>吉野名産の杉林に囲まれたオートキャンプ場。春から夏にかけては新緑が美しく、夏にはひんやりとした天の川で水遊びや水泳を楽しめる。宿泊施設はコテージとバンガローがある。</p>

(出典：紀の川ダム統合管理事務所ウェブサイト、オートキャンプ場とちお、円空の里なごみ村キャンプ場、吊り橋の里キャンプ場、天の川青少年旅行村、一般財団法人 大塔ふる里センターウェブサイトより作成)



## 7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

### 7.3.1 水没移転の状況

猿谷ダム建設事業に伴う水没補償を表7.3.1-1に示す。

猿谷ダム建設に伴い、旧大塔村と天川村で95戸の住民が水没対象となったが、十津川村の減水補償、漁業補償、流筏補償（国道整備）を含む補償交渉が妥結し、試験湛水前には全戸の移転が完了した。

表 7.3.1-1 水没補償

項目	内訳	関係町村	摘要
用地補償	土地買収 877 反 327.64	大塔村 782 反 623 天川村 79 反 926.06  野迫川村 12 反 504 五條市 2 反 204.58	湛水敷地 756 反 007.74 付替道路敷地 54 反 713.32 堰堤附属敷地 43 反 929 川原樋川筋 取水堰堤敷地 13 反 212 その他敷地 9 反 325.58
	田 13 反 213	大塔村 12 反 718 天川村 0.425	湛水敷地 11 反 113 付替道路敷地 0.412 その他敷地 1 反 618
	畑 53 反 128	大塔村 49 反 811 天川村 3 反 317	湛水敷地 45 反 124 付替道路敷地 5 反 127 その他敷地 2 反 807
	宅地 8407 坪 42	大塔村 6564 坪 58 天川村 1178 坪 26 五條市 664 坪 58	湛水敷地 7439 坪 52 付替道路敷地 303 坪 32 その他敷地 664 坪 58
	山林 728 反 207.80	大塔村 645 反 729 天川村 69 反 904.80 野迫川村 12 反 504	湛水敷地 622 反 816.80 付替道路敷地 46 反 922 堰堤附属敷地 43 反 929 川原樋川筋 取水堰堤敷地 13 反 212 その他敷地 1 反 118
	原野 54 反 624	大塔村 52 反 323 天川村 2 反 301	湛水敷地 52 反 007 付替道路敷地 1 反 109 その他敷地 1 反 508
	墓地 7 坪 42	大塔村 7 坪 42	湛水敷地 7 坪 42
	移転家屋		水没移転 87 戸 付替道路移転 8 戸 計 95 戸

(出典：猿谷ダム工事誌)

## 7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

### 7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

#### (1) 猿谷ダム水辺地域ビジョンについて

『猿谷ダム 21 世紀水源地ビジョン』は、ビジョンの策定及び推進に向けて、今後、検討を行っていく。

### 7.4.2 地域とダム管理者の関わり

地域とダム管理者との関わりを表 7.4.2-1 に示す。

猿谷ダムでは、地元市町村等、地域との関わりとして、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環で平成 19 年度まで「サマーレイクフェスティバル」を開催してきた。平成 19 年度は 8 月 4 日に開催され、絵画コンクール表彰式、コンサート等の催し物を行った。本イベントには、地元の小学生を主とした一般市民が多く参加した。

なお、平成 20 年度以降は、「森と湖に親しむ旬間」等の行事は開催されていない。

表 7.4.2-1 地域とダム管理者との関わり

開催年月日	名称	開催場所	内容	主催者
平成 19 年 8 月 4 日	サマーレイクフェスティバル	猿谷ダム	・環境月間絵画コンクール 表彰式 ・ステージイベント ・関係団体ブース出展 等	猿谷ダムサマーレイクフェスティバル実行委員会



図 7.4.2-1 サマーレイクフェスティバル 2007 の開催状況

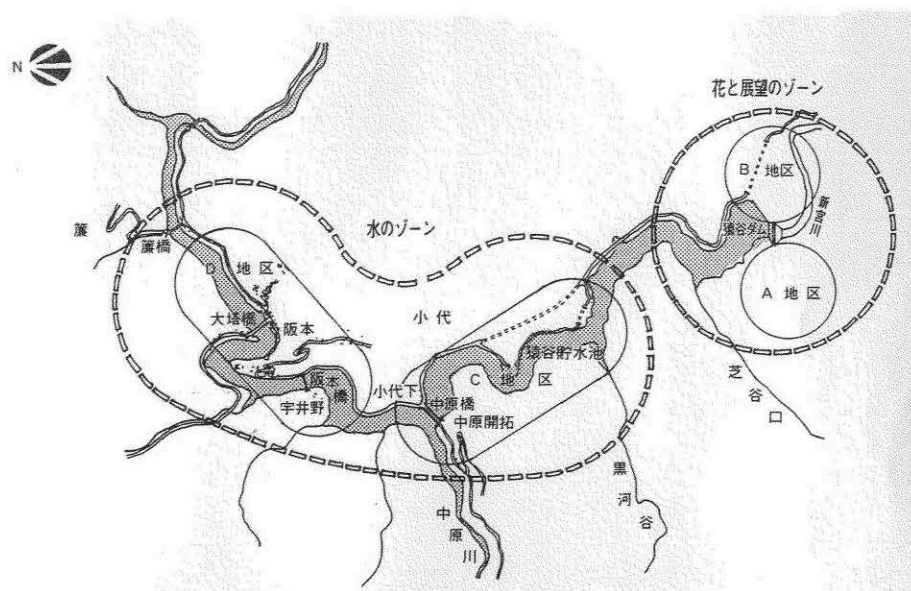
## 7.5 ダム周辺の状況

### 7.5.1 ダム湖周辺施設の設置状況

猿谷ダム湖周辺施設の設置状況を図 7.5.1-2、表 7.5.1-1 に示す。

ダム湖周辺施設の設置状況は、ダム湖及び周辺区域の自然環境を活用した猿谷ダム周辺環境整備を行うことにより、ダム周辺地域の活性化を図るものである。本事業は、貯水池周辺の整備、管理歩道及び緑地対策等を行い、湖水美等の自然環境を維持するとともに、一般利用者への安全対策及び施設の活用を図り、また新たなレクリエーションの場を地元住民に提供するために昭和 57 年度から調査を始め、昭和 58 年度より工事に着手した。昭和 61 年度までにダムサイト右岸の一部の環境整備が完成し、その後引き続きダムサイト左岸の工事を実施し、完成後は左右岸の残り区域の環境整備を行い、新しいダム環境づくりを行った。

猿谷ダムでは、ダム周辺を 4 つの地区に分け、展望広場、遊歩道、エントランス広場、桜並木、環境護岸等を整備した。A 地区については昭和 60 年、B 地区は平成 3 年、C 地区は平成 5 年、そして D 地区は平成 7 年にそれぞれ完成した。また、平成 7 年には、A、B 地区あわせて五條市（当時は大塔村）と管理協定を締結し開放している。



(出典：猿谷ダム管理のあゆみ)

図 7.5.1-1 猿谷ダム周辺環境整備事業概要図



猿谷あいあい公園

B地区にある猿谷あいあい公園は、道路端の山側に位置し、少し高い丘にあり、(1) 展望広場、(2) だんだん広場、(3) ぼうけん広場が設置されており、見晴らしが良く、四季折々の花々を楽しむことができる。しかし、平成24年現在、落石等の恐れがあるため立ち入り禁止となっており、侵入防止策を設置する等、安全対策については管理者である五條市と連携して実施している。

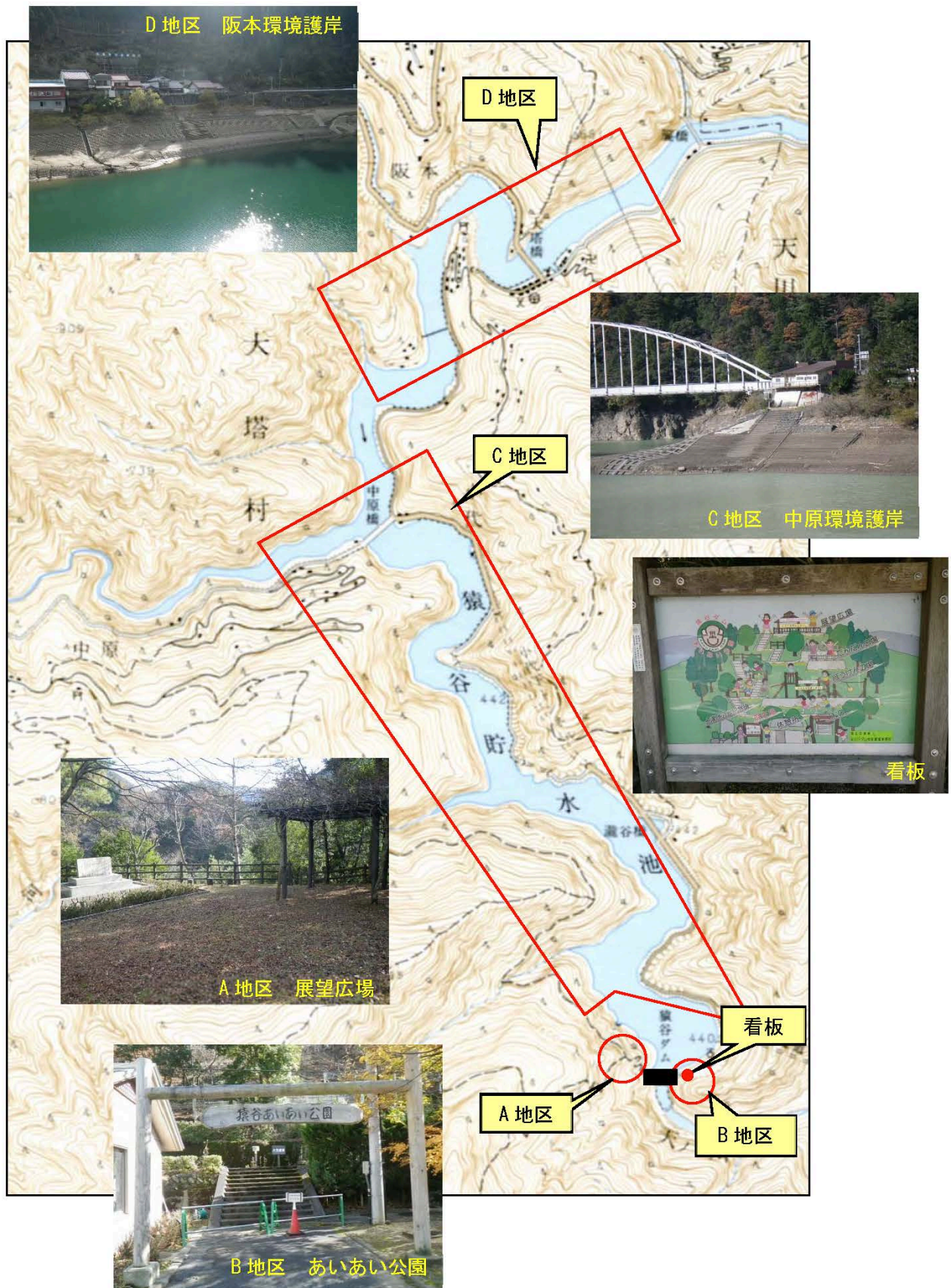
表 7.5.1-1 ダム湖周辺施設の設置状況

地区	設備
A地区	○展望広場（慰霊碑） ○遊歩道
B地区	○エントランス広場（記念碑・便所） ○展望広場 ○桜並木 ○遊歩道（※現在は歩けない） ※あいあい公園は、落石等の危険があるため、平成29年現在閉鎖中
C、D地区	○環境護岸

\*R4年10月現在、A、B地区は封鎖中

(出典：猿谷ダム年次報告書)





(出典：猿谷ダム年次報告書)

図 7.5.1-2 ダム周辺整備状況



## 7.5.2 ダム周辺施設の利用状況

### (1) ダム周辺施設の入込観光客数

ダム周辺観光地位置図を図 7.5.2-1 に、ダム周辺施設の入込観光客数を図 7.5.2-2 に示す。

主な周辺施設として、道の駅吉野路大塔、ふれあい交流館、大塔コスミックパーク「星のくに」、大塔郷土館等がある。これらの施設の入込客数は、漸減傾向にあったが、平成23年9月の水害後、施設の休止等の影響もあり著しく減少し、その後も少ない状態で推移している。

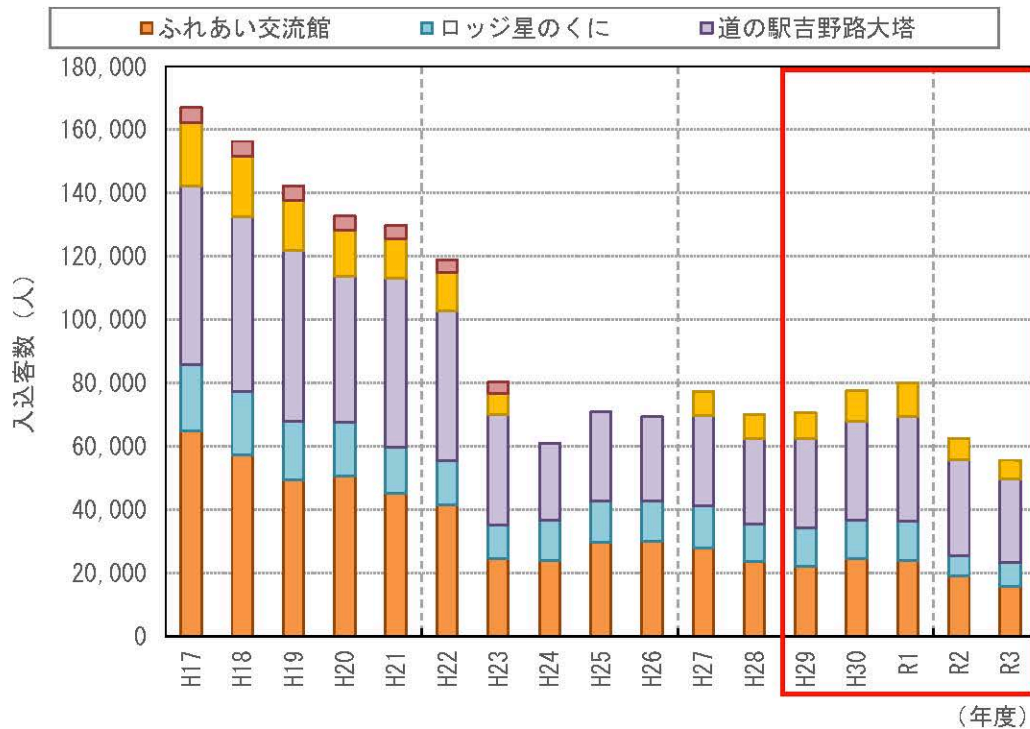
なお十津川村は水源地域には該当しないが、猿谷ダム周辺施設の利用者は十津川村施設も併せて利用している場合が多いことから、ここでは参考として十津川村の周辺の観光施設の入込客数を図 7.5.2-3 に、観光施設の位置を図 7.5.2-4 に示す。

猿谷ダム周辺施設及び十津川村観光施設のいずれにおいても、令和2年は多くの施設で前年と比較して入込客数が大きく減少したが、これは新型コロナウイルス感染症の拡大の影響によるものと考えられる。



(出典：猿谷ダム年次報告書)

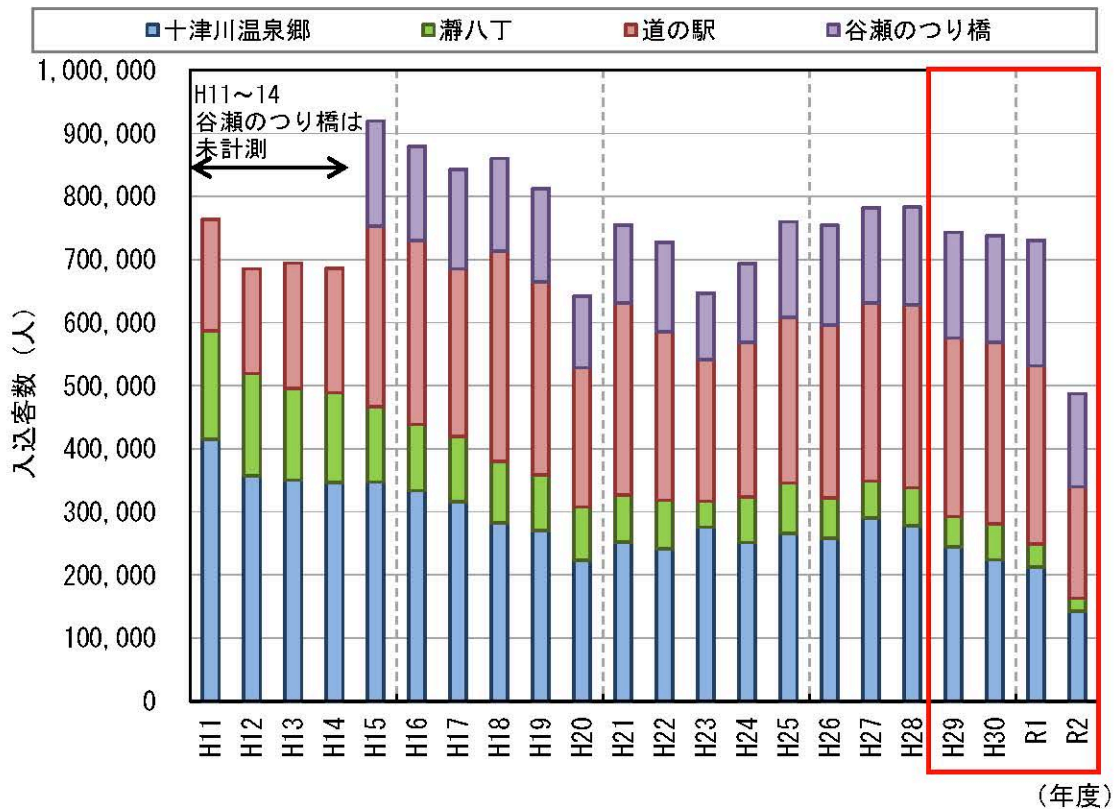
図 7.5.2-1 猿谷ダム周辺の観光施設位置



H23. 9月水害後、道の駅は売店のみ営業、ふれあい交流館はH24. 7月、大塔郷土館はH27. 4月より再開。赤谷キャンプ場は現在も休止中。

(出典：一般財団法人大塔ふる里センター資料より作成)

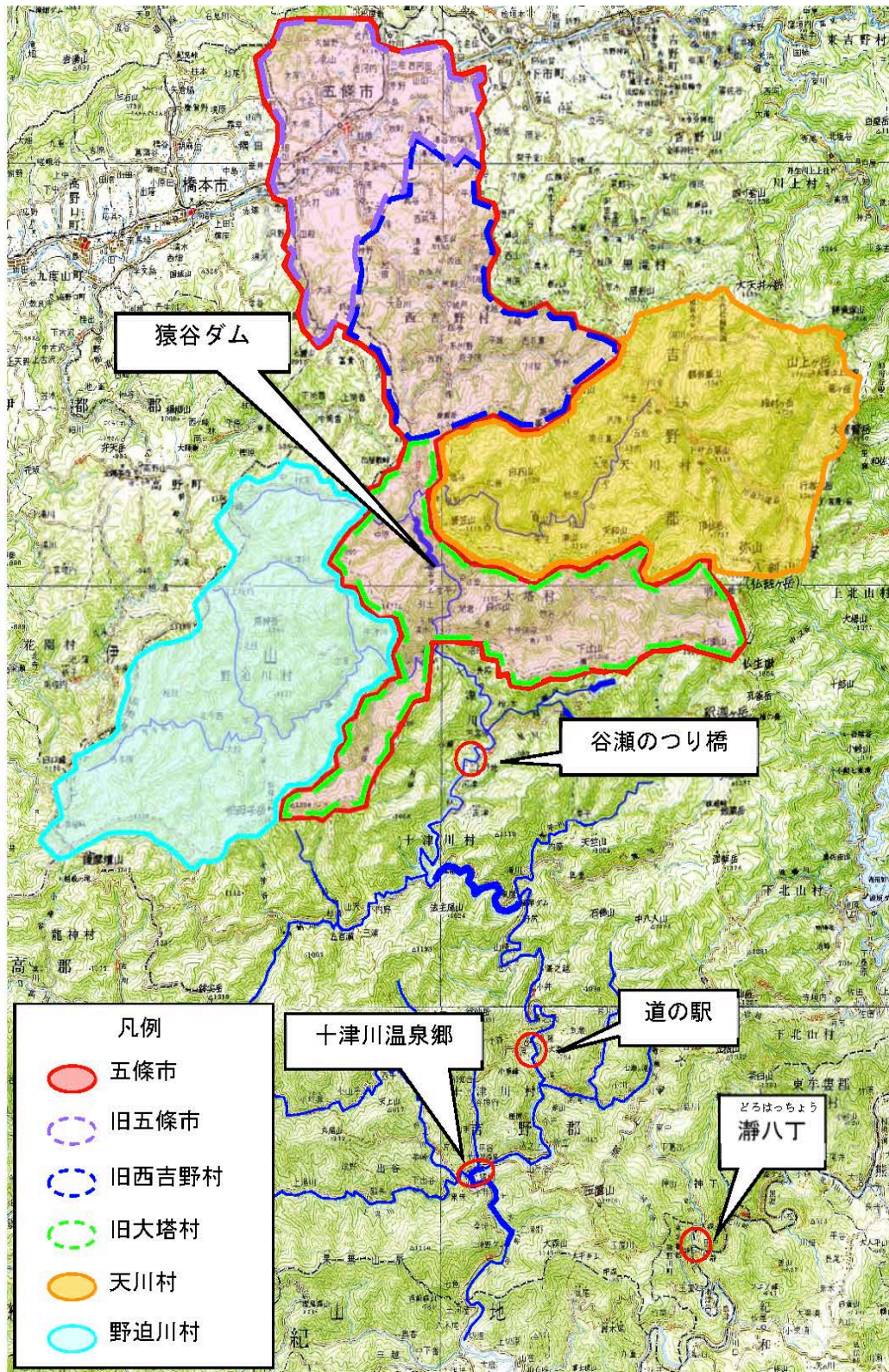
図 7.5.2-2 ダム周辺施設の入込観光客数



(出典：十津川村資料より作成)

図 7.5.2-3 猿谷ダム周辺（十津川村）施設の入込観光客数





(出典：猿谷ダム年次報告書)

図 7.5.2-4 猿谷ダム周辺（十津川村）観光地位置図



## (2) ダムカード配布状況

猿谷ダムで配布しているダムカードを写真 7.5.2-1 に示す。

ダムカードは、国土交通省と独立行政法人水資源機構の管理するダムにおいて、ダムのことをより知って貰う目的で平成 19 年度より、ダムを訪問した方に配布している。また、平成 30 年度には、平成天皇御在位 30 年記念のダムカードを配布している。

令和 2 年度～3 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、前年度と比べて配布枚数が大幅に減少したものの、令和 3 年度末までに累計 10,783 枚を配布している。



写真 7.5.2-1 猿谷ダム ダムカード

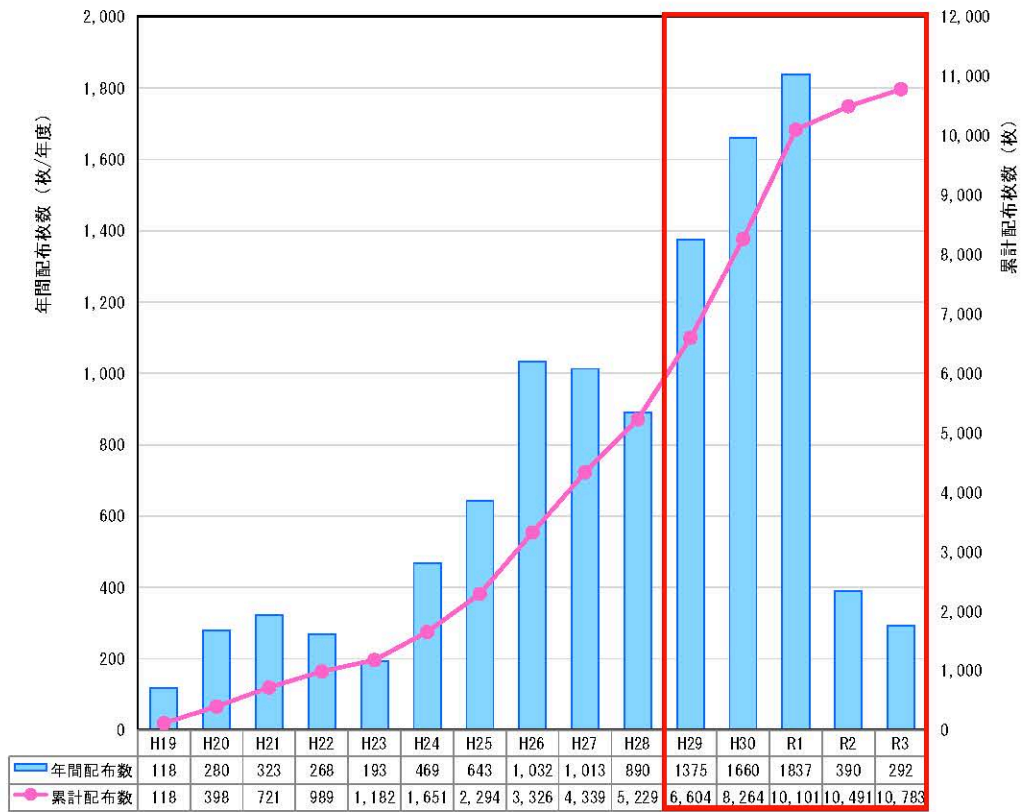


図 7.5.2-5 ダムカードの配布枚数



### 7.5.3 ダム周辺のイベント等の開催状況

猿谷ダム周辺で平成24年度～令和3年度にかけて開催されたイベントを表7.5.3-1に示す。

猿谷ダムでは、ダム管理者と地域との関わりとして、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環で平成19年度まで「サマーレイクフェスティバル」を開催してきた。サマーレイクフェスティバル2007は、平成19年8月4日に開催され、絵画コンクール表彰式、コンサート等の催し物を行った。本イベントには、地元の小学生を主とした一般市民が多く参加している。平成20年度以降は、「森と湖に親しむ旬間」の行事は開催されていないが、今後、ダム管理者と地域との関わりに関連する取り組みを再開することを検討していく。

その他の活動として、平成21年7月26日には、サイクリングイベント（第6回山岳グランフォンド in 吉野）のルートとして猿谷ダムの一部が利用された。

また流木の無料配布については、平成25年以降に毎年行っている。配布量は、年によって20～135m<sup>3</sup>程度、配布人数は28～139組程度であり、地域の好評を得ている。

表 7.5.3-1 ダム管理者主催のイベント(流木配付活動)

年	開催期間	行事等名	開催場所	主催	参加者	内容等
H25	6月21日～7月12日	流木の無料配布	猿谷ダム	紀の川ダム統合管理事務	42人	・ダムに流れ込む流木(42m <sup>3</sup> )を無料配布
H26	7月1日～7月15日 (5・6日祝除く)				28組	・ダムに流れ込む流木(20 m <sup>3</sup> )を無料配布
H28	8月29日～9月9日 (土日含む)				32組	・ダムに流れ込む流木(35 m <sup>3</sup> )を無料配布
H29	7月10日～8月31日				121組	・ダムに流れ込む流木(76 m <sup>3</sup> )を無料配布 ・処分費約120万円を削減した。
H30	7月10日～8月31日				118組	・ダムに流れ込む流木(60 m <sup>3</sup> )を無料配布 ・処分費約100万円を削減した。
R1	8月13日～なくなるまで				62組	・ダムに流れ込む流木(100 m <sup>3</sup> )を無料配布 ・処分費約160万円を削減した。
R2・R3	11月16日～2月26日				139組	・ダムに流れ込む流木(135 m <sup>3</sup> )を無料配布 ・処分費約140万円を削減した。

(出典：猿谷ダム年次報告書)

**猿谷ダムにて流木の無料配布を実施** H29.7.10~8.31

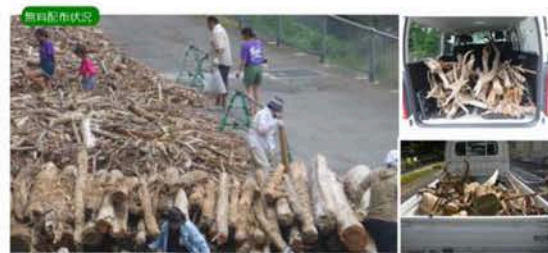
配布期間 H29.7.10~8.31 ～紀の川ダム統合管理事務所～

- 猿谷ダムでは、台風等により大量に流れ込んでくる流木について、資源の有効活用とコストの削減を図るため、無料配布を行いました。
- 約7.6m3の流木を持ち帰っていただき、大好評でした。
- 処分費約120万円のコスト削減にもつながりました。
- 平成25年度から始めて今年で5年目となります。

**概要**

●配布日時 平成29年7月10日～8月31日 ●実施場所 猿谷ダム  
●主催 紀の川ダム統合管理事務所 ●担当 初島 直樹 12.1 輪

平成 29 年度



平成 30 年度

**猿谷ダム『流木』無料配布**

雨が降ると、ダムには大量の流木が流れ込み、放流ゲートなどの設備を傷つけることがあります。そのため、定期的にダム内の流木を集めて処分していますが、コスト削減と資源の有効利用からカーテニングや流木アート、薪などに利用していただけるよう「流木の無料配布」を行います。

配布期間：令和元年 8月13日 から、なくなるまで行います。  
AM.9:00～PM.4:00 (土日祝日をきむ)

令和元年度

**猿谷ダム『流木』無料配布**

雨が降ると、ダムには大量の流木が流れ込み、放流ゲートなどの設備を傷つけることがあります。そのため、定期的にダム内の流木を集めて処分していますが、コスト削減と資源の有効利用からカーテニングや流木アート、薪などに利用していただけるよう「流木の無料配布」を行います。

無料配布期間：令和2年11月16日～令和3年2月26日まで  
9:00～16:00 (土日祝日をきむ)

令和2年度・令和3年度

(出典：猿谷ダム年次報告書)

図 7.5.3-1 流木配付活動



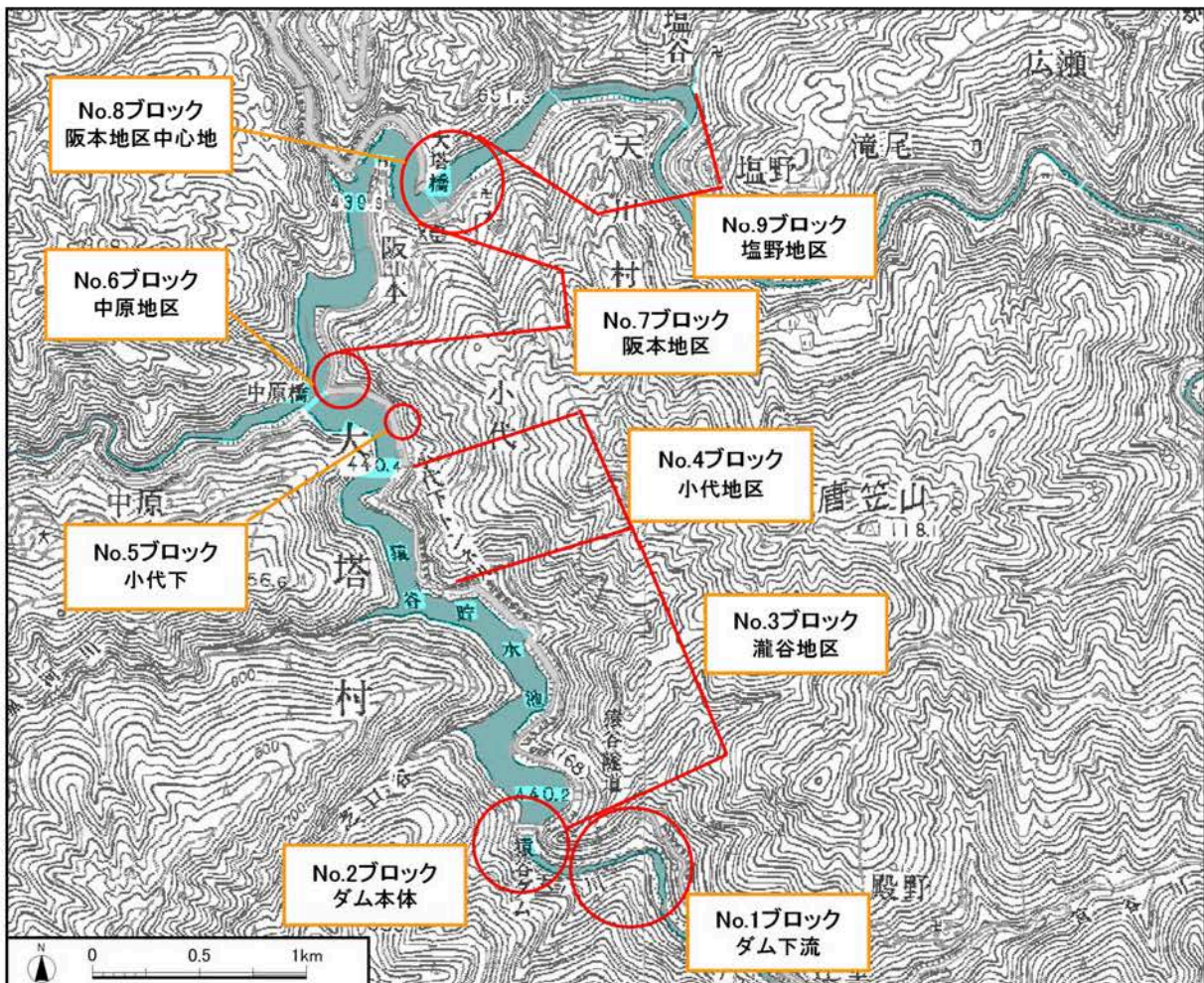
## 7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査は、「河川水辺の国勢調査」の一環として平成3年度から実施されているダム湖及び周辺地域における利用状況に係る調査であり、ダム周辺整備計画等の検討の際の基礎データとして資することを目的に、平成30年度に改定されたマニュアル「平成31年度版 河川水辺の国勢調査マニュアル [ダム湖版]（ダム湖利用実態調査編）」に基づき実施した。

この項は、令和元年度に実施した河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）の調査結果を整理した。

ダム湖利用実態調査のブロック区分施設位置図を図7.6-1に示す。

猿谷ダムのダム湖利用実態では、以下の9つのブロックに区分して調査を実施している。



- ※No. 2 ダム本体 ダム管理支所・トイレ(休憩所)・駐車場がある。
- ※No. 3 瀧谷地区 食堂がある。
- ※No. 5 小代下 前回(H26)にはトイレがあったが、現在はない。
- ※No. 6 中原地区 売店がある。
- ※No. 7 阪本地区 吊橋がある。

図 7.5.3-1 ブロック区分施設位置図



## 7.6.1 利用者カウント調査結果

### (1) 年間利用者（推計値）

猿谷ダムにおける年間利用者数（河川水辺の国勢調査「ダム湖利用実態調査」推計値）を図 7.6.1-1 に示す。

年間利用者数は、至近 15 ヶ年平均値で 17 千人程度であり、直近の令和元年度は、これを下回る程度であった。平成 12 年度から 15 年度の減少が顕著であったが、利用者数の減少要因として、幾つか可能性を挙げるとすると、水源地域における人口減少（少子高齢化による外出頻度、交流人口の減少）、ダム湖周辺施設の老朽化に伴う魅力の減少等が考えられる。利用目的は散策が多く、次いで釣りとなっている。

年間利用者数の全国的な状況を見ると、令和元年度調査における猿谷ダムの年間利用者数は、全国 114 ダム中で第 95 位、近畿地方整備局管内 11 ダム中で 11 位の利用者数となっており、全国ダムの中でも、利用者数が少ない。

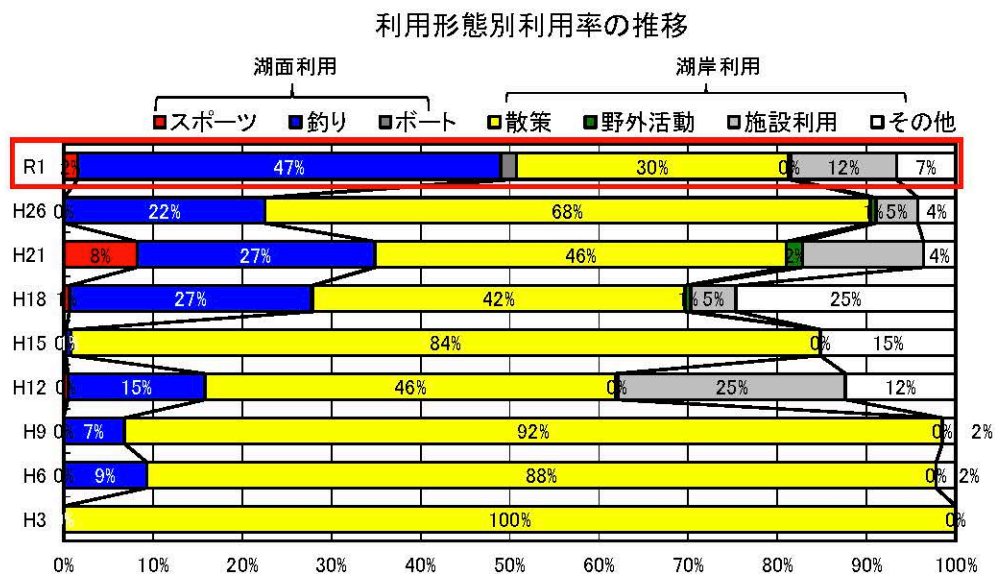
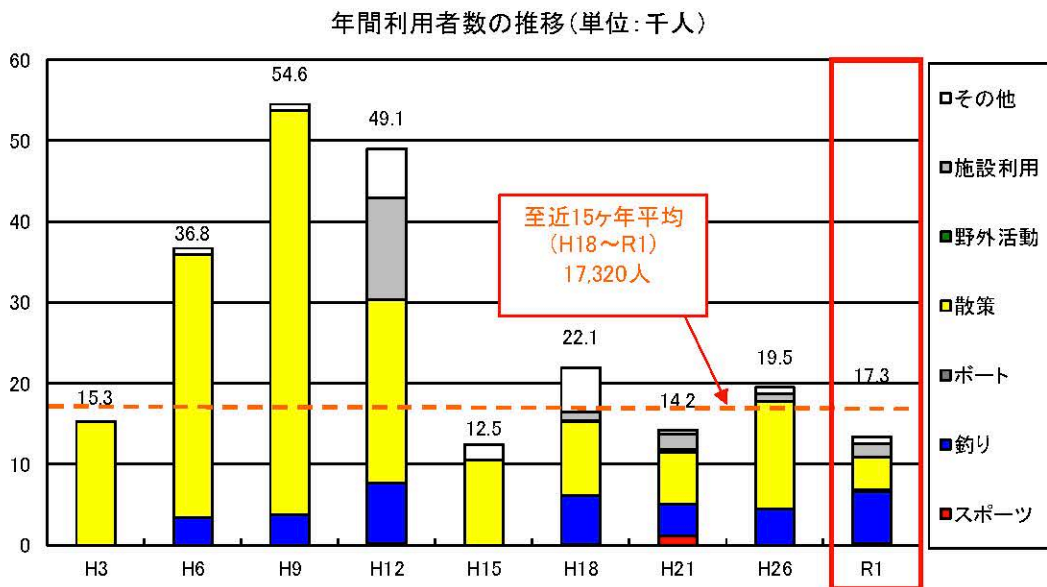


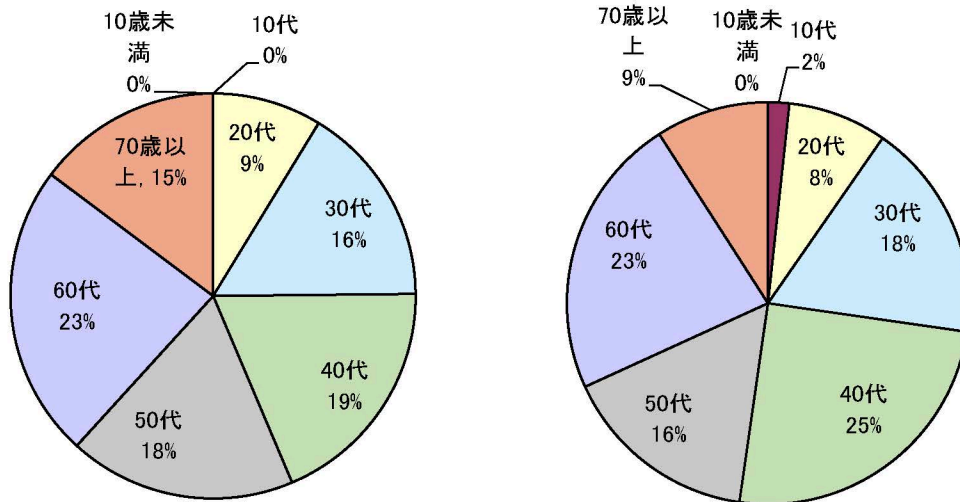
図 7.6.1-1 猿谷ダムにおける年間利用者数（推計値）の経年変化

## 7.6.2 利用者アンケート調査結果

### (1) 利用者年齢層

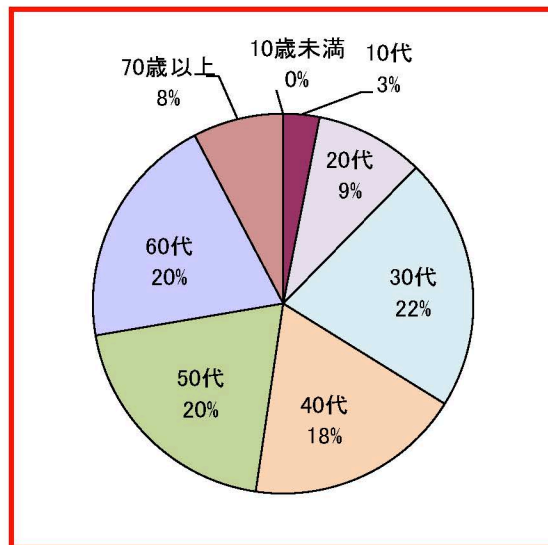
利用者アンケート調査における利用者年齢層を図 7.6.2-1 に示す。

年齢層は 10 代、20 代が少なく 30 代～60 代が多くなっている。令和元年度は、30 代の割合がやや増加し、40 代の割合がやや減少したが、大きな変化ではなかった。



平成 21 年度

平成 26 年度



令和元年度

図 7.6.2-1 利用者年齢層

## (2) 利用者の住居

利用者アンケート調査における利用者の住居を図 7.6.2-2 に示す。

利用者の住居は、奈良県、大阪府が多く、次いで和歌山県が多くなっていた。令和元年度は、大阪府、奈良県の順位、大きな変化ではなかった。

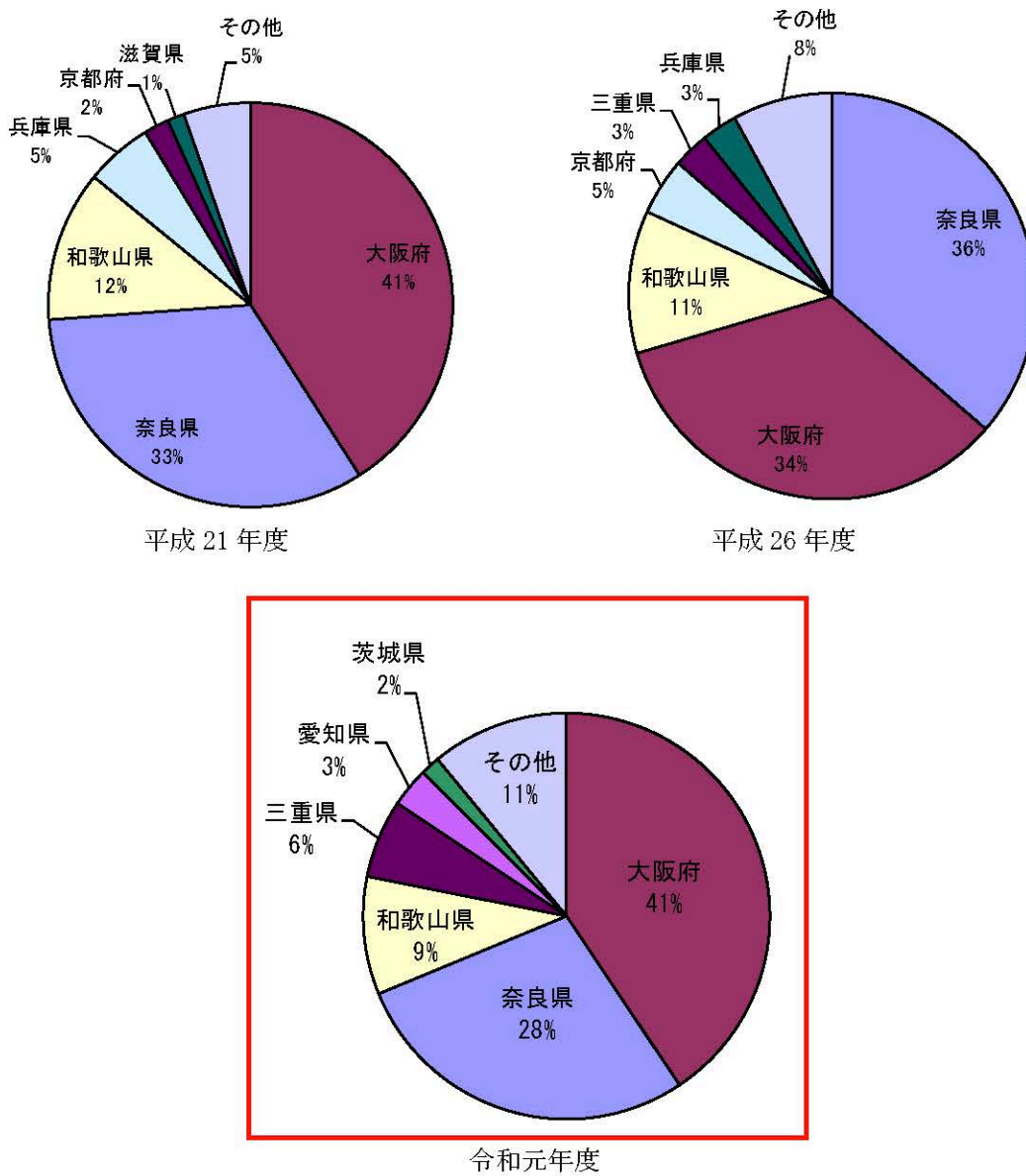
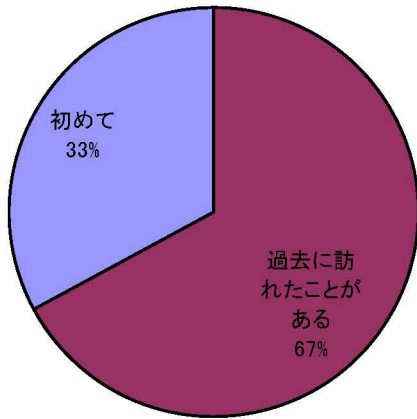


図 7.6.2-2 利用者の住居

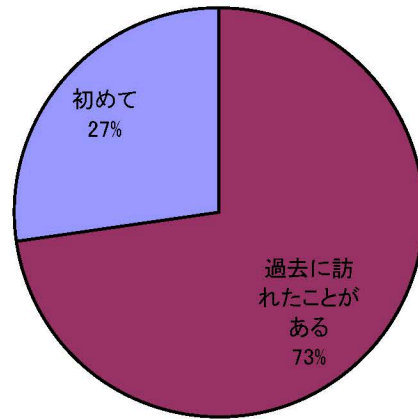


### (3) リピート状況

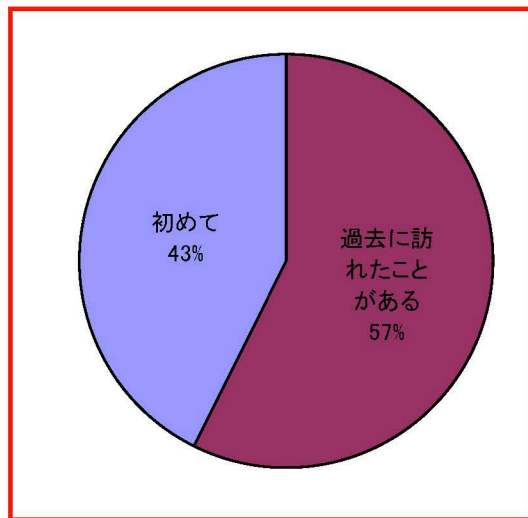
利用者アンケート調査における利用者のリピート状況を図 7.6.2-3 に示す。  
利用者のリピート状況は、概ね 57%前後である。



平成 21 年度



平成 26 年度



令和元年度

図 7.6.2-3 利用者のリピート状況

#### (4) 利用者満足度

猿谷ダムにおけるアンケート調査による利用者満足度の経年変化を図 7.6.2-4 に示す。

「満足している」、「まあ満足している」は増加傾向がみられ、両回答の合計値で見ると、平成 15 年度の 39%から令和元年度には 59%に増加した。「やや不満である」、「不満である」の合計値も平成 18 年度以降減少傾向がみられ、平成 18 年度の 12%から平成 26 年度に 7%に、令和元年度は 5%に減少した。

満足している理由としては、自然が豊かなこと、ダムカードの配布、放流があげられ、不満な理由としては、道路が狭いとの意見があげられている。利用者数は減少傾向にあるが、満足の比率が増加傾向にあることについて、その理由は明かではないが、リピート率が 57%程度と高いことから、猿谷ダムの自然等に満足し、繰り返し利用する人の占める割合が増加していることが考えられる。

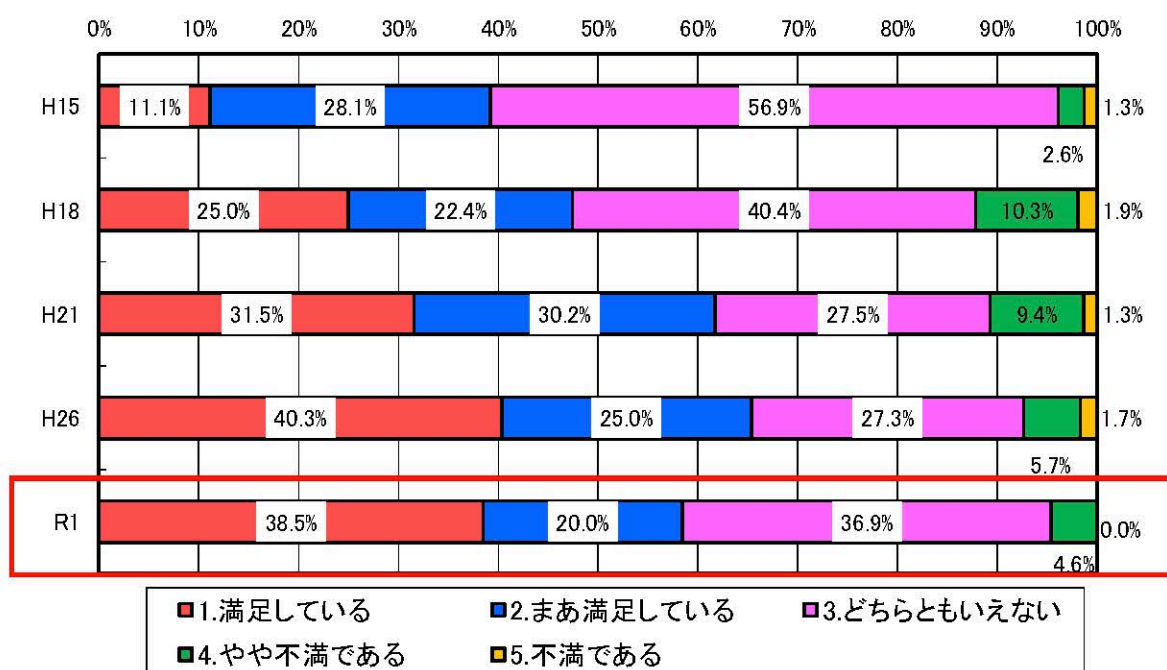


図 7.6.2-4 利用者満足度の経年変化

## 7.7 まとめ

猿谷ダム周辺には展望施設、遊歩道、あいあい公園等の様々な施設が設置されているが、老朽化等に伴い、現在は利用できない施設もある。また、近年、ダム周辺のイベント等は実施されていない。

流木の配布やダムカードの配布等を通じて、地域とのコミュニケーションの交流やダム管理に対する理解の向上に努めている。

ダム来訪者へのアンケート結果では、猿谷ダム利用者の半数以上が周辺設備に概ね満足している等、観光資源としての要素は持ち合わせていると考えられる。

今後の方針として、猿谷ダムの役割や機能、取り組み状況等を一般の方に広く理解していただけるよう、継続的かつ効果的なPR活動を行っていくとともに、ダム周辺の自然環境や周辺施設を利用した活動等に参画していく。



## 7.8 文献リスト

水源地域動態に係る整理のため、以下の資料を収集した。

表 7.8-1 使用資料リスト

No.	文献・資料名	発行者	発行年月	備考
7-1	猿谷ダム工事誌	近畿地方建設局十津川利 水工事々務所	昭和 36 年	
7-2	猿谷ダム管理の歩み ー猿谷ダム 30 年史ー	国土交通省 紀の川ダム 統合管理事務所	昭和 63 年 11 月	
7-3	ダム周辺施設観光入込客数	一般財団法人 大塔ふる里センター	平成 17 年 ～令和 2 年	ダム周辺施設 の利用状況
7-4	ダム周辺施設観光入込客数	十津川村	平成 24 年 ～令和 2 年	ダム周辺施設 の利用状況
7-5	平成 24 年度猿谷ダム定期報告書	国土交通省 近畿地方整備局	平成 25 年 3 月	
7-6	河川水辺の国勢調査	国土交通省河川局河川環 境課	平成 26 年度	ダム周辺利用 実態
7-7	国勢調査	総務省統計局	平成40年～令和2年	人口、世帯数
7-8	五條市ウェブサイト	五條市		
7-9	オートキャンプ場とちおウェブサイ ト	オートキャンプ場 とちお		
7-10	円空の里なごみ村キャンプ場ウェブ サイト	円空の里なごみ村 キャンプ場		
7-11	吊り橋の里キャンプ場ウェブサイト	吊り橋の里キャンプ場		
7-12	天の川青少年旅行村ウェブサイト	天の川青少年旅行村		
7-13	紀の川ダム統合管理事務所ウェブサ イト	国土交通省近畿地方整備 局	—	
7-14	一般財団法人 大塔ふる里センター ウェブサイト	一般財団法人 大塔ふる 里センター		
7-15	奈良県ウェブサイト	奈良県	—	奈良県自然公 園等区域図
7-16	河川水辺の国勢調査	国土交通省河川局河川環 境課	令和元年度	ダム周辺利用 実態
7-17	猿谷ダム年次報告書	国土交通省近畿地方整備 局	平成 24 年～令和 3 年	